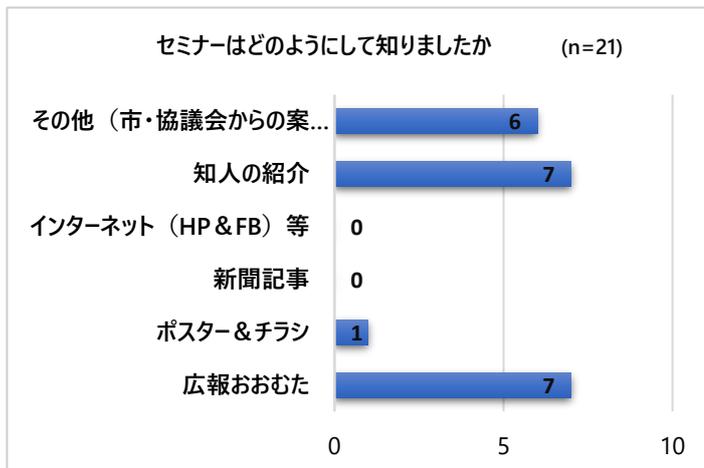
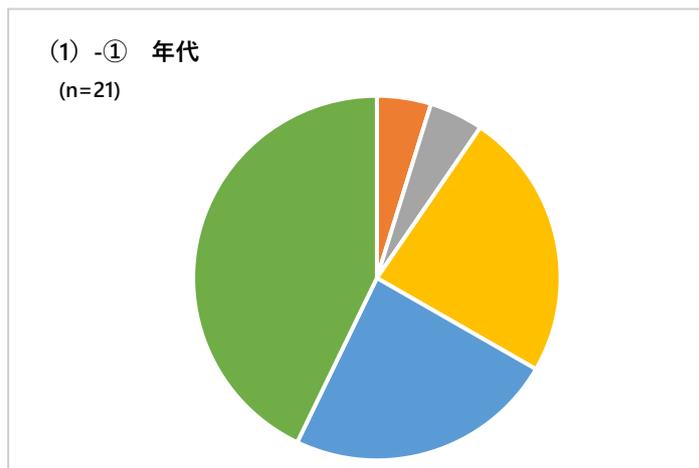


■ 令和6年度 おうちの終活セミナー アンケート結果

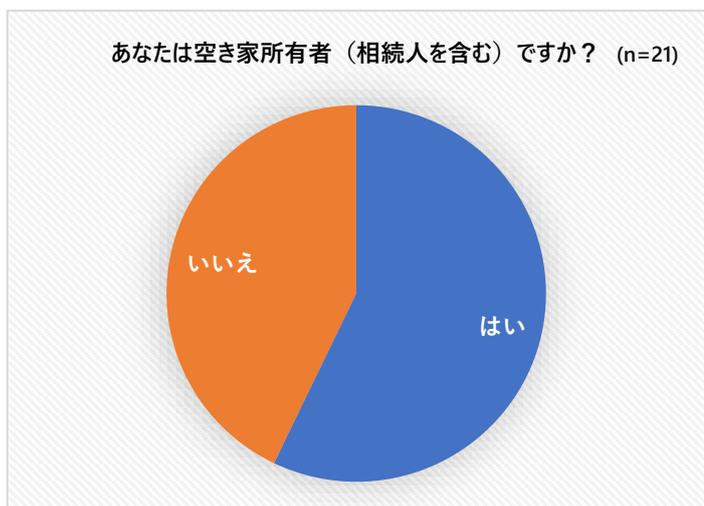
令和6年11月23日（土） えるる



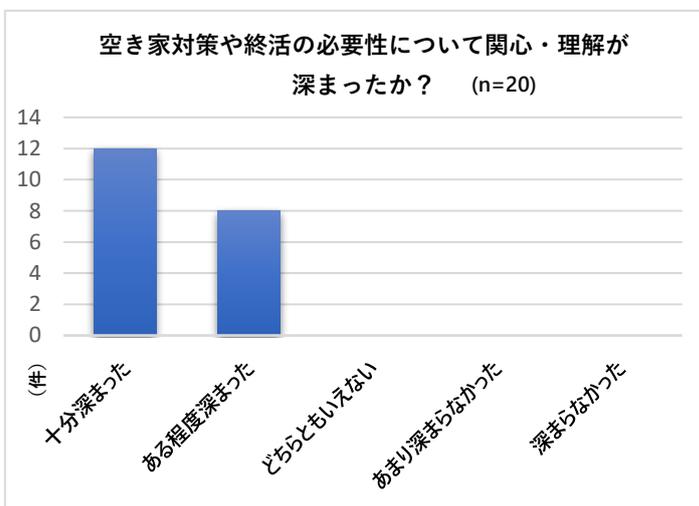
開催周知については、市・協議会からの案内や広報おおむたが効果的である。なお、知人からの紹介については羽山台校区の関係者が考えられる。



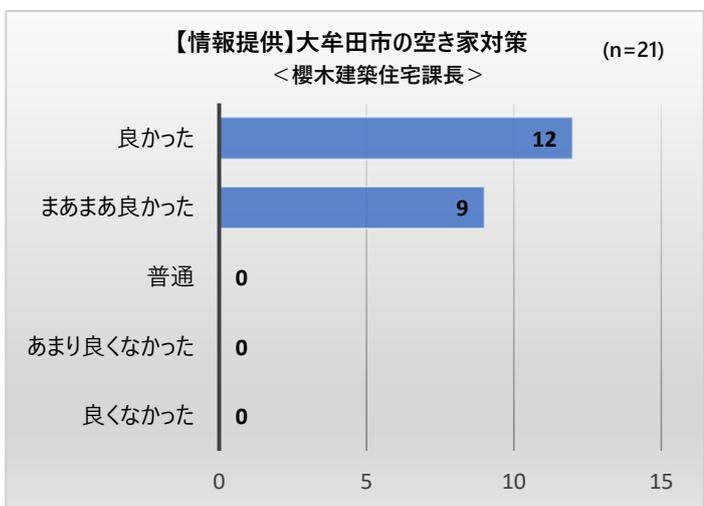
50代以上が9割以上を占める。この年齢構成は、相続等によって空き家問題がわが事となり、関心を寄せていると思われる。



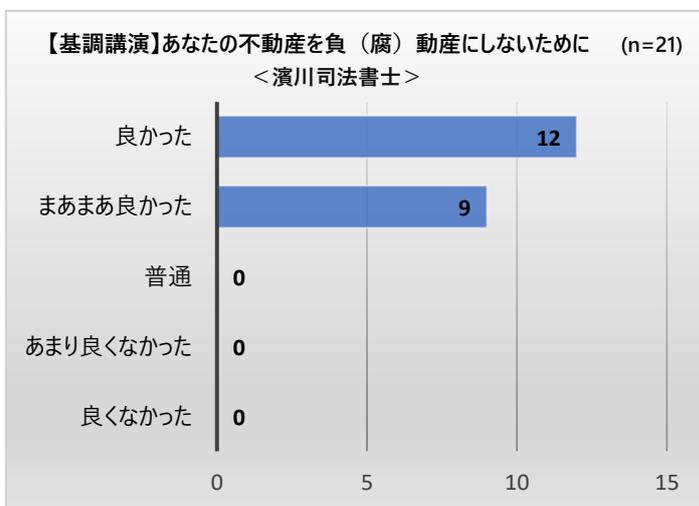
空き家所有者が6割弱であった一方で、所有していない人の割合が4割を超える。いい意味で言えば、空き家予備軍の意識啓発になったと言える。



十分深まった、ある程度深まったとの意見が大半であり、空き家に対する意識啓発はできたと言える。

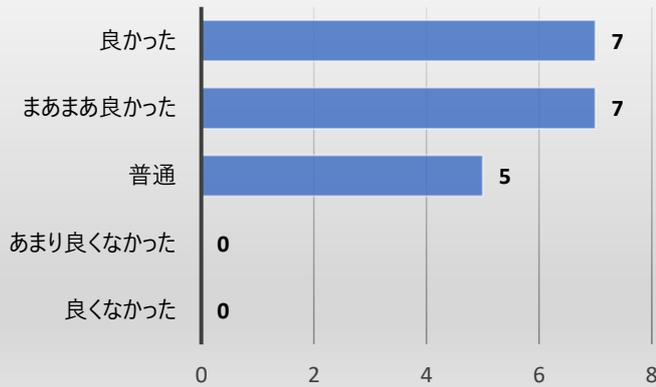


良かった、まあまあ良かったとの意見が大半であり、大牟田市の空き家対策の現状や取り組みについて情報提供できた。



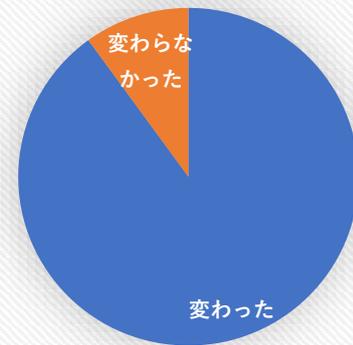
良かった、まあまあ良かったとの意見が大半であり、大牟田市の空き家対策の現状や取り組みについて情報提供できた。

【パネルディスカッション】空き家解決のヒント (n=19)



羽山台校区の取り組みを紹介した。空き家問題を地域課題として取り組む事例はとても大切な視点であるが、属人的から仕組みに転換するかが課題。

実家の空き家対策や終活に対する考え方は変わったか？ (n=20)



空き家対策や実家の終活に対して、参加者の9割は意識が変わったとの意見である。

所有する空き家を今後どのように管理しようと思ったか？ (複数回答可)



【雑感】

- ・空き家問題は、相続等により我が事となって初めて考える現状にあり、現所有者や空き家所有予備軍は「なんとかなるだろう！」という切迫感がない。
- ・人口減少が進むなか、市は個人の問題（責任）としてホッタルカシにしておく、10年後や20年後に大きなツケが回ってくるのが想定される。
- ・人も金もない中、それは老朽危険家屋として、市はその対応に追われることになるだろう。現に山陰地方の市では追われている現状にある。
- ・協議会の取り組みは、住宅政策の一つとして、フレッシュな空き家を増やし良質な賃貸住宅市場の活性化にある。
- ・空き家対策の取り組みは地道な啓発活動であるが、住みやすい大牟田市のために引き続き取り組んでいくことが求められるだろう。